

事業効果	<p>地球温暖化問題と日常生活のつながり、温暖化が及ぼす深刻な影響についての気づきを促すことにより、有効な温暖化防止活動へ一歩を踏みだすきっかけづくりとなった。</p> <p>① 環境活動をする人や興味を持ち始めた人が、地球温暖化防止活動推進センターサイトを閲覧する事により、世界や県内外の温暖化の現状や他団体の活動状況を把握した。又、多岐にわたる活動の紹介や事業効果を公表することにより、効果的な地球温暖化の普及啓発活動充実につなげ、インターネット環境にある人への広報に役立った。アクセス数は月平均800件。 【CO2削減量 335,800 kg-CO2】</p> <p>② 温暖化防止対策講座は、事業者、一般市民、行政 職員、婦人会などさまざまな主体に対して働きかけ、効果的な普及啓発や広報が可能となった。又、地球温暖化対策の必要性を感じてはいるが、行動が伴わない県民が多いため、ブース出展は、できることから始めようの呼びかけを判りやすく伝えることができ、CO2削減効果が大きく見込めた。</p> <p>(No1) 秋田県児童会館「みらいあ」環境エコ講座へ、自然観察指導員(鎌田和子氏)を講師派遣し、「ツキノワグマの成長記」を通して、温暖化が生態系に与えている現状(冬眠からの早い時期の目覚め)を参加親子に伝え、理解を深めた上での温暖化防止 のための行動を促した。 【CO2削減量 18,250 kg-CO2】</p> <p>(No2) 秋田生協茨島店 環境講座へ、地球温暖化防止活動推進員(朝倉孝子氏)を講師派遣し、「①身近な温暖化対策について ②エコドライブしよう」の講演を行い、参加者へ温暖化の現状を伝え、エコドライブの推進を啓発した。 【CO2削減量 36,500 kg-CO2】</p> <p>(No3) 由利本荘市西目公民館シーガル 環境講座へ、環境カウンセラー(工藤兼勝氏)を講師派遣し、「循環型社会をつくろう」を演題に、地球温暖化の現状を伝え、循環型社会の構築の必要性を参加者が学んだ。 【CO2削減量 32,850 kg-CO2】</p> <p>(No4) 秋田イオンショッピングセンター御所店でエコブース(3ブース)を出展した。CO2削減量 新春初売りへ来た親子連れを対象に、秋田杉廃材を利用した「マイはしつくり」ブース、廃ろうそくを利用した「リメイクキャンドルつくり」ブース、落ち葉を再利用して温暖化防止のコメントを記入した「しおり作成」ブースを出展し、多くの来場者へ体験講座を通じて啓発を促した。 イベントブース出展は、地域密着型であり、かつ多面的なアプローチにより、その地域の無関心層に環境への意識配慮をもつきっかけづくりに効果的であった。【CO2削減量 1,095,000 kg-CO2】</p> <p>(No5) クリーンカー臨海中古車フェアにて、パネル展示ブースを出展し、同時にエコドライブリーフレット及びエコドライブステッカーを配布し、来客へ「エコドライブの必要性と推進」を呼びかけた。 【CO2削減量 182,500 kg-CO2】</p> <p>(No6) 秋田駅前西口アゴラ広場にて、温暖化防止に関するパネル展示ブース出展と清掃活動を行った。温暖化防止の啓発と、環境保全の意識の向上に繋がった。【CO2削減量 104,025 kg-CO2】</p> <p>③ JR秋田駅前アゴラ広場一帯で、県内最大級の環境イベントである、第8回エコ&リサイクルフェスティバルを県庁、地球温暖化防止活動推進員と連携協力して開催した。 県庁所在地JR駅前という立地条件に恵まれ、来場者が多く、またさまざまな環境を切り口としたブース出展があることから、地球温暖化防止に向けた体験型の展示を中心とした、温暖化紙芝居の上演やクイズ、クリーンエネルギー発電体験の自転車等を展示し、「見る・体験する・学ぶブース」で多くの来場者へ普及啓発、広報を行った。又、アンケート調査も行い、県民の地球温暖化に対する意識調査を行った。</p>
------	--

【CO2削減量 1,934,500 kg-CO2】

- ④ 「エコドライブグランプリ」では、運転の仕方次第でCO2の排出量を削減でき、ガソリンの節約にも繋がるということをコンテストを通じて参加者に体感してもらった。グランプリ終了後はHP等の広報にて、具体的な数字を示す事により、車社会秋田の多くの運転者へ、一般の人にも実践可能な「エコドライブ」の普及・啓発を効果的に行い、即、実現可能なCO2排出量削減と地球温暖化防止の周知につなげ、波及効果を生み出した。

【CO2削減量 21,900 kg-CO2】

- ⑤ 秋田県児童会館展示室にて、「地球異変(朝日新聞社)」の50枚からなる写真展示を2週間開催し、多くの次代を担う子供たちの環境を大切に育て、率先して環境を守る活動を喚起につながる気付きを促した。写真展の最終日には「30年後、北極はなくなる・・・それでも白くまナヌーは生きる」をテーマにした、温暖化の影響により厳しい現実さらされている北極熊ナヌーの映画上映を開催。餌不足からふたん食べないセイウチを襲う衝撃的なシーン等が印象的だが、その原因の一つが、地球温暖化であり、このまま進めば2040年には北極の氷が解けてなくなってしまう事に対する警鐘をならしている内容であった。彼らの運命は私たち人間が握っているのだという事を子どもたちに実感してもらい、自ら行動を起こす事の大切さを伝えた。鑑賞した子ども達には、「子ども地球温暖化防止推進員」として学校や家庭で活躍してもらおう事とした。

【CO2削減量 18,250 kg-CO2】

- ⑥ 地球温暖化防止活動推進員の協力を得て、廃ろうそくから作成するリメイクキャンドル作り体験講座を開催し、同日「キャンドルナイト2009in冬至」を開催した。再生キャンドル作りの体験やキャンドルナイトは、地球温暖化問題と日常生活のつながりについての気付きを促し、温暖化による深刻な影響についての気付きを促し、ライフスタイルの転換など各人が行動を起こすきっかけ作りとなった。

【CO2削減量 91,250 kg-CO2】